

令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：オホーツク地区
- 2 事例報告学校名：網走市立西小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 井坂 裕一
- 4 キーワード：幸福感、つながり、学校間連携 地域連携

1 はじめに

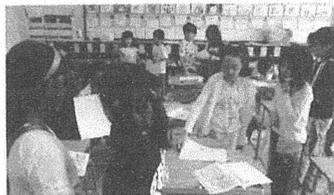
本校は、終戦っ子と言われる子どもの急増対策として網走小学校や中央小学校から分離した学校である。網走市市街地の西方、北見や常呂方面からの入り口に位置し、創立73年を数える。開校理由となった児童数も減少、令和7年度の児童数は93人、10学級である。学校教育への協力者は多く、地域人材や地域との関わりを生かした学習を各学年で実施している。また、網走市立第二中学校区の小・中学校の連携も重視して、教育活動を推進している。本稿では、その取組について紹介する。

2 「幸福感」をキーワードにした学校経営

主体的・協働的に学ぶことで「達成する幸せ」、互いの居場所をつくることで「安らぐ幸せ」、多様な人と関わる学習や生活により「つながる幸せ」を感じられる学校づくりを目標としている。また、グランドデザイン策定についても、同じ網走市立第二中学校に進学する網走市立中央小学校と育成課題（「自己調整力」「主体性・創造性」「コミュニケーション力」）を共有して、教育活動を推進している。コロナによる教育活動の制限、各種連携の停滞の影響を今もまだ感じることがある。人とふれあい、こすれ合い、物事を成し遂げていく経験の充実が必要不可欠である。子どもたちが大きくなり小学校時代を振り返る時、温かな思いが蘇ってくることを願いつつ、教職員はもちろんのこと、保護者や地域、教育行政とも連携して日々を重ねている。

3 個に応じた指導、主体的に学ぶ経験の蓄積

基礎的な知識や技能を身に付ける指導、家庭との連携を大切にしながら、目標をもち主体的に学ぶ経験を重ねていく学習過程を大切に指導にあたっている。単元の始めには児童と教師が対話しながら、到達したい姿を共有している。その達成のために必要なステップを考えてから学習をスタートしており、学習計画は常に一覧できるようにしている。



4 校区小・中学校間の連携

コロナの影響もあり、小・中学校の連携が途絶えた状況であった。R6年度に3校で話し合い、R7年度より上述の連携（グランドデザイン策定）をはじめ、以下のような連携を推進している。

①小小、小中学校間の交流機会の設定（6年生同士の交流学習、中学生による生活講座やレクリエーション）②専科教員の兼務指導（理科専科や外国語専科による小・中学校兼務）③小・中合同研修会の実施（公開研究会やオープンスクールへの相互出席、合同研修会の実施）等を通じて、9年間で子どもを育成する協働意識、教職員の相互理解、専門性や親和性の高まりが見られる。



5 地域連携、社会資源の活用（多岐にわたるため、一部を紹介）

(1) 地域ボランティアとの連携

朝の挨拶運動、ボランティアサークルによる絵本の読み聞かせ、市の地域活性化担当と連携した体力テスト・スキー学習等の支援、サポート学習の指導など地域有志の方に様々な面でお世話になっている。



(2) 校区内高校との連携

ブドウ栽培～ワイン造りに取り組んでいる日本体育大学付属高等支援学校支援のもと、ブドウ収穫体験を実施している。地域の特色を学ぶ機会にもなっている。

(3) 企業、各種団体との連携

ふるさとである網走について学ぶ機会を様々な方面の協力を得て実施している。以下に数例紹介する。①地場産業でもある「ホタテ」の生態学習・貝むき体験・給食での実食体験②かつて網走の中心的な産業であった捕鯨の歴史を学ぶ学習③網走川に生息する生物を観察したり河畔を清掃したりして環境保全に関わる学習④地域の農産物に関する出前授業⑤網走港から船に乗り、網走の海を体感する学習など、多くの協力を得て社会科や総合的な学習の時間、理科などに関連する体験を重ねている。



(4) 町内会等との連携

社会福祉協議会、市の防災課、地区協議体とともに防災避難訓練を開催している。今年度実施した訓練には学校近隣に暮らすお年寄りを中心に約30人が学校に垂直避難した。高学年児童と避難所設営に係る体験活動を共にを行った。



(5) PTAによる新規連携の模索

コロナによる連携の断絶、少子化の影響もあり、PTA活動も模索期にある。役員とも話し合い、子どもたちが楽しめる活動は保障していこうと考えた。今年度より「この指とまれ」式のイベントを試験的に実施していくことにし、第1弾として親子ティーボール大会を行った。野球未経験児童の家族も参加し、楽しい一時を過ごした。また、スキー学習を実施する本校では、スキーに掛かる費用が親の悩みの種であった。そこで、スキーバザーを行うこととした。スキーを運搬し、大きなスペースで一気にバザーをするのも大変なため知恵を出し合い、スキーのマッチングバザーを企画した。出品者と受け取り側でサイズがマッチした者同士が受け渡しを行った。



6 おわりに

幸福感は、人とのつながりの中から育つものである。学校内はもちろんのこと、学校間・地域連携を通じて共に学び、支え合う関係がコロナ禍前とは違う新たな形で広がっていくことが肝要である。地域全体の豊かさにも緩やかに結実すると考える。幸せの輪を拡げていくイメージを大切に、学校経営を進めていきたい。